

市民説明会等における意見等について

1 市民向けに立地適正化計画・地域公共交通網形成計画(たたき台)の説明会を実施。

(1) 日時等 平成28年2月9日(火)～2月19日(金) 19時開始(全会場共通)

各区1箇所で開催

(2) 参加者 計50人

日程	対象区	会場	
2月9日(火)	門司区	門司生涯学習センター	0人
2月10日(水)	若松区	若松生涯学習センター	2人
2月12日(金)	八幡東区	八幡東生涯学習センター	4人
2月16日(火)	小倉南区	小倉南生涯学習センター	18人
2月17日(水)	八幡西区	八幡西生涯学習総合センター	6人
2月18日(木)	戸畑区	ウェル戸畑	10人
2月19日(金)	小倉北区	生涯学習総合センター	10人

(3) 周知方法

- ・ 市政だより(平成28年2月1日号)掲載
- ・ 北九州市ホームページ掲載
- ・ 各区役所、出張所、市民センターに説明会の案内チラシを配布
- ・ 北九州市政記者会(クラブ)への投げ込み など

2 各区自治総連合会等向けに立地適正化計画・地域公共交通網形成計画(たたき台)等の説明会を実施。

(1) 日時等 平成28年3月～5月

(2) 参加者 計425人

日程	対象区	会場・相手先	
3月1日(火)	八幡西区	八幡西区役所(正副会長会議)	20人
3月1日(火)	八幡東区	八幡東区役所(会長会議)	25人
3月2日(水)	門司区	門司区役所(会長会議)	23人
3月8日(火)	八幡西区	八幡西区役所(理事会)	23人
3月9日(水)	小倉南区	小倉南区役所(会長会議)	26人
3月10日(木)	八幡西区	黒崎クラウンパレス (八幡南ロータリークラブ)	40人
3月30日(水)	小倉北区	クラウンパレス(会長会議)	20人
4月6日(水)	小倉北区	クエスト第2ビル (小倉のまちづくりを考える会)	60人
4月22日(金)	若松区	若松区役所(会長会議)	47人
4月18日(月)	小倉南区	本庁舎(曾根のまちづくりを考える会)	2人
4月25日(月)	八幡東区	平野市民センター(前田第四自治会)	63人
5月17日(火)	—	リーガロイヤルH (北九州建築設計監理協会)	60人
5月20日(金)	戸畑区	西日本工業倶楽部(理事会)	16人

(3) 周知方法 各区の担当課・団体等を通じて依頼・要請。

3 説明会における意見等の概要は別紙のとおり。

市民説明会等における主な意見等の概要 ※●：追加意見(3/24以降)

1. まちづくりに関する意見等

- この計画は規制となりうる計画なのか。
- 全体的には、財政的な話も含め、今後、厳しくなるということで、十分、内容は理解できるのだが、総論賛成・各論反対ということになると思うので、十分に地域住民に説明等をしっかり行い、内容を理解している市民を増やしていくことが必要。
- 街なかは便利だと思うが、現在の居住地から離れられないから全国で過疎・過密という問題が起こっている。もっとその土地に住んでいる人の気持ちになって、どうしたら誘導できるかを考えるべき。
- 行政がコンパクトシティを作ってくれるというように思えるが、計画づくりだけなのか。市民がやらなければならないことを周知し、それを市民が分かるように伝えなければならない。
- 保健福祉などの他分野の計画とリンクした計画とするとともに、住民も巻き込んで進めていくような計画を示すべき。
- この計画を進めていくと、現在の自治会がどのように変わっていくのか。
- 計画策定の趣旨は分かるが、居住誘導区域から外れた箇所の斜面地にも家がある。これを将来的にわたり、平地に下ろした方が良いがなかなか難しいとも思う。
- 高台に住んでいる人が誘導区域内に移動した際に、高台に残った土地を市が買い上げなどを行わなければ、誘導はできないと思う。高台の土地、特に車が入っていけない土地は、売るに売れず、相続した人がただでも良いので引き取ってくれと言っているような状況でもある。そういった方々が、長期的に見れば、集中都市の方が福祉なども行き届くとは思いますが、行政が将来どういったことをやっていくのか見えない。
- 高台にも市営団地はある。まずは公共が率先して、高台から平地に下ろすことを行うべきではないか。

- この計画を遂行することで、徐々に居住する箇所が現状から移行し、広大な空き地が発生する可能性がある。そのような箇所で重点的な高齢者対策を行えば、スムーズに移行できるのではないか。
- 若松や八幡東には、居住誘導区域外になる箇所が多い。25年後の資産価値はどのように考えているのか。
- 市内に複数の拠点があるがどういう基準で決めたのか。
- 階層拠点について、上位階層との有機的な結びつきが生活視点でどういう状況になるかを市民レベルで分かりやすく説明すべき。
- コンパクトザウルスの考え方は良いと思うが、特に新門司、柄杓田、高須などは拠点にしなくても良いのか。また、各地域の顔は考えなくて良いのか。
- 人が住む場所を選択する際には、雇用と産業が非常に重要である。特に買い物は日々行うものであり、地元商店街などを大事にするような施策は打てないものか。
- コンパクトシティを目指すということは税収減で広範囲のインフラ整備が困難ということが原点だと思う。郊外に残っているのが少人数でも道路や水道の整備はしないといけないので、大変なのではないか。しっかりとした誘導をした方が良いのではないか。
- 本計画は、H52年を一つの区切りとしている。言葉は悪いが、今、65歳くらいの人は、25年後には亡くなっている人が多く、その息子たちは、住む場所として街なかを選択するので、自然にコンパクトシティになるのではないか。
- 地域によっては、市街化調整区域においても、子どもがどんどん増えている地域がある。そのような地域では、市街化調整区域を市街化区域にして住宅を建てられるようにしたら良いのではないか。
- 居住誘導区域への住み替えあたっては、(受け皿として) 公的賃貸住宅を増やす必要があるのではないか。
- 居住誘導区域と区域外の地域がどんなふうに変わっていくのか、もう少し具体的な説明が必要ではないか。
- 居住誘導区域外の行政サービスは低下させない旨を計画の中にはっきり明記して欲しい。

2. 交通に関する意見等

- バスが引き起こす交通渋滞の一番のネックは、高齢者の乗降時間である。ノンステップバスの導入などは行っているが、道路拡幅などを行うことで、問題を解決すべきだ。
- 西鉄バスには、もっと地域に入って欲しい。
- 街の将来を考えるうえで、移動手段としてバスを重視していると感じたが、バスがもっと利用しやすくなることは非常に良いことだ。
- 公共交通を使えというが、市の職員が率先して使うべき。
- バスを利用したいが、バス停が遠く、利用できない箇所がある。乗りたくても停まらないから利用できない。
- バスルートについては、ルートを決めて、バス停はないが、手を挙げれば停まってくれ、どこでも乗降ができるようにすれば、解決の手立てになるのではないか。
- 交通網の充実について、移動費用の視点が入っているのか。乗り換え時に費用が多くかかるようであれば使い勝手が悪くなるのではないか。
- 区域外の対策として、生活施設が集まっているような場所を経由するような環状バスの方策をぜひ考えて欲しい。
- 民間事業者の経営を圧迫しないように、できるだけ民営で頑張ってもらいたい。どうしようもない場合、市（おでかけ交通）で運営すべき。
- 市営バスは、西鉄にまかせるべきではないか。

3. その他意見等

- 参加者が少なすぎる。周知の仕方に問題がある。重要な計画なのでもう少し丁寧に説明して欲しかった。説明会をやって結果が出なかったら意味がない。帳面消しにならないよう苦言として申し上げたい。
- 長いスパンのまちづくり計画ではあるが、人ごととは思わず、市民も一人一人が考えていくことが大事。
- 企業誘致や出生率の向上に力を入れて、市の活性化を図っていくべきである。